



第12回 舞台技術セミナー



関西舞台テレビテクノ&アート協同組合 主催

『なるほど舞台機構！美術バトン編』

に参加してきました～！

2月21日(水)兵庫県立芸術文化センター KOBELCOS 大ホールにて、関舞協主催の綱元講習会が行われました。以前大阪では社内の綱元講習会を行いましたが、他セクションも参加する綱元講習はどんな内容だったのでしょうか！？今期より委員会メンバーになった西村さんが参加したのでレポートしてもらいます！



△

先日、兵庫県立芸術文化センターで開催されたバトン講習セミナーに参加させて頂きました。この劇場では通常電動バトンを使用しているため、仮設の手引きバトンで講習を行いました。まず、施設管理者、大道具、舞台機構の方々から手引きバトンと電動バトンの利点と問題点についてそれぞれ話を伺いました。そして、電動バトンの操作卓の動きを見た後に手引きのバトンで実際に操作させて頂き、双方の危険性と利便性を知ることができました。お芝居の心情や情景に合わせたバトン操作ができることから演劇では手引きが良いとされていますが、手引きは操作する人の経験が影響してきます。電動バトンは重量物を吊りこめられますが他バトンとの干渉等、異変に気付くことが手引きよりも困難であるため危険性が高くなります。今後仕事をしていく中で、バトン操作時の意思疎通と昇降時の確認を徹底し、安全に作業して事故をなくしたいと改めて思いました。

先日劇場の大きさや吊りものの規模が大きくなったこと、阪神淡路大震災以降の建築基準法の改正による耐震面の強化により、最近では電動バトンの劇場が増えているそうです。電動バトンになったことでバトンの重量が大きくなったりウェイトの積み降ろしの時間がなくなったり、多くの利点がありますが、アルミでも鉄でも吊ってしまっていることから、万が一落下した時のリスクは高くなっています。操作する人の経験と技量が大事ですが、バトンの担ぎを察知できることや、芝居に合ったバトン操作が出来るといった点で、演劇に関わる際はやはり手引きを用いるそうです。電動バトンで操作した後に自分たちで実際に手引きのバトン进行操作させて頂き、双方の危険性と利便性を知ることができました。

(技術部：西村)



そろそろ鼻がムズムズ。。

花粉症の季節です。

今年、花粉の飛散量は関東甲信では約1.5倍、東京のスギ花粉のピーク期間は3月上旬から4月上旬となり、多く花粉が飛ぶ期間が長くなると予想されています。2018年春の花粉の飛散量は、西日本の一部を除き全国的に2017年よりもやや多めで、花粉開始も例年並みか例年よりも早い予想です。

花粉症の症状は、人の粘膜に付着してくしゃみ、鼻水、鼻づまり、目がかゆいといった症状から始まります。人間の体は花粉を異物として認識して抗体を作り、抗原である花粉を追い出そうとして、くしゃみをしたり、鼻水や涙で洗い流そうとします。自分のライフスタイルに合った花粉症対策を取り入れていきましょう。

◎外出時の注意点

- ・立体型マスク、メガネを着ける
- ・花粉が付着しにくいスベスベした生地の衣服を着る
- ・玄関に入る前に、花粉を家に入れないように衣服から払い落とす
- ・帰宅したら、手洗い、うがい、洗顔をして花粉を洗い流す

◎屋内、家庭での注意点

- ・ドアや窓はきちんと閉める
- ・掃除は花粉の少ない朝に済ませるのがオススメ、こまめな拭き掃除も効果的
- ・外に布団や洗濯物を干さない、干した場合はしっかりと叩いてから室内に持ち込む
- ・寝具の掃除や枕の掃除はこまめに
- ・睡眠は十分に取る
- ・空気清浄機の使用も効果的